

2026年2月5日

各位

会社名 フューチャー株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証プライム)
問合せ先 ファイナンシャル&アカウンティンググループ
執行役員 松下 恭和
(TEL (03) 5740 - 5724)

2025年12月期連結業績のお知らせ

1. 2025年12月期業績について

当社グループの当連結会計年度（2025年1月1日～2025年12月31日）の連結業績は、

売上高	75,993 百万円（前期比 8.8%増）
営業利益	16,176 百万円（前期比 10.3%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	11,712 百万円（前期比 13.5%増）

となりました。

当連結会計年度における世界経済は、ウクライナ及び中東地域における地政学リスクの長期化に加え、米国トランプ政権による保護主義的な貿易政策や自国利益を優先した孤立主義的な対外政策が一段と鮮明になったことなどから、不確実性の高い状況が続いております。国内経済においては、物価上昇及び段階的な金利上昇、円安及び人手不足により原材料・人件費等のコストが増加しております。

こうした経済環境下でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）による業務改革、生産性の向上による深刻な人手不足への対応、国際情勢を踏まえたBCP（事業継続計画）の観点からの企業全体のサプライチェーンの見直し等、ITを通じた経営改革や業務改善の動きは引き続き旺盛であり、活発なIT投資が続いています。また、AI（生成AIを含む）を活用した新たなデジタルサービスの開発や業務効率化の動きも加速しています。

このような状況のもと、フューチャーアーキテクト株式会社は、金融機関向けクラウド型基幹系業務システム「次世代バンキングシステム」を、7月に第2行目（島根銀行）において安定稼働を開始させました。また、新規に3行（仙台銀行、きらやか銀行、東和銀行）の導入が決定し、設計を開始しております。（*）

これに加えて、前連結会計年度第2四半期から損益を連結した株式会社リヴァンプの業績が、共同営業等によるシナジーの発現から成長しているほか、ITコンサルティング&サービス事業の各社が堅調に成長いたしました。

これらの結果、売上高、営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前期比で増収増益となりました。

(*) 2026 年 1 月 30 日付当社プレスリリースの通り、S B I 新生銀行への「次世代バンキングシステム」の導入が決定いたしました。詳しくは、以下のプレスリリースをご確認ください。

https://www.future.co.jp/press_room/PDF/PressRelease_JisedaiBankingSystem_260130.pdf

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下のとおりです。

(1) I Tコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）では、政府が主導する医療D Xに関連するシステム構築のプロジェクトのほか、小売業、食品卸、金融等様々な業界のD Xに関する大規模プロジェクトが立ち上がり、順調に進捗しております。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、「次世代バンキングシステム」の新規導入に加えて、金融機関向け融資支援システム「FutureBANK」についても、新規導入が進んだほか、生成A Iを活用した生産性向上を実現する新機能を実装いたしました。アパレル向け基幹プラットフォームシステム「FutureApparel」導入の大型プロジェクトにおける開発フェーズが順調に進捗しております。これら知財の展開に加えて、当社がD X戦略パートナーとなる長期的な取引を見据えた顧客との新規取引を獲得し、複数のプロジェクトが立ち上がりました。これらの結果、売上高及び営業利益は前期比で増収増益となりました。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客のシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が引き続き好調に推移したものの、大型の開発案件が終了した影響により、前期比で減収減益となりました。

F u t u r e O n e 株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、既存顧客への業務改善提案に伴うシステム開発案件の受注が拡大し、前期比で増収増益となりました。

フューチャーアーティザン株式会社は、P L M事業への本格参入による新規大型案件の獲得や、D Xコンサルティング案件の価値訴求が売上に寄与し、前期比で増収となったものの、グループ間での事業移管の影響やソフトウェア償却負担の増加などから、営業利益は前期比で概ね横ばいとなりました。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、ビジネスモデルの変革に伴い通信機器やセキュリティ関連商材の新規販売が減少したものの、新規のセキュリティサービス案件の受注が増加したことなどから、前期比で増収増益となりました。

株式会社リヴァンプは、様々な企業の経営実務を支援する経営マーケティング事業、基幹システム刷新や全社構造改革コンサルティングを行うD X事業がともに計画を上回りました。加えて、経営マーケティング事業において、支援先の企業価値向上に伴う成功報酬売上を計上しました。同社は、前連結会計年度第2 四半期から新規に損益を連結しております。当連結会計年度より業績が通期寄与するほか、フューチャーアーキテクトとの共同営業の推進によるグループシナジーを発現し、新規案件を獲得したことなどから連結後の前年同期比で増収増益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は 67,515 百万円（前期比 10.9%増）、営業利益は 16,381 百万円（同 12.7%増）となり、前期比で増収増益となりました。

(2) ビジネスイノベーション事業

株式会社Y O C A B I T Oは、経営改革の施策実行に伴うナショナルブランドの販売品目絞り込み等から前期比で減収となったものの、粗利率の高いプライベートブランド商品の販売が好調だったことや固定費の削減などにより、前期比で営業損失は縮小しました。

東京カレンダー株式会社は、コンテンツ事業における広告売上や積極的なイベント開催による収益に加え、「東カレデート」等のネットサービスによる収益が好調に推移したことで前期比で増収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、アマチュア向け分析サービス「FastBall for Personal」での生成A Iを活用したデータ分析レポートの提供や「デジタル野球教室」の開催など、スポーツ界でのD Xを推進したものの、一部案件の品質向上にリソースを割いた結果、前期比で減収となりました。一方、販管費等のコストを適切にコントロールしたことで前期比で増益となりました。

株式会社キュリオシティは、腕時計・鞆など複数の海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが完了したものの、前期に完了したジュエリーブランドの大型ストアデザインの反動減により前期比で減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は 8,486 百万円（前期比 6.1%減）、営業利益は 178 百万円（同 53.2%減）となり、前期比で減収減益となりました。

2. 今後について

（1）グループ戦略について

中長期的な事業環境においては、生成A Iを始めとしたA I及びロボティクスにより、あらゆる業種・業界の事業環境を根底から覆すような変化が起こる可能性があります。こうした中、企業のD X投資の在り方も今後変革を迎える可能性があります。

当社グループとしましては、A Iによる顧客の抜本的な経営改革を支援することに加え、グループ会社間の機能を掛け合わせた共同営業などグループシナジーを発揮しながら多面的、積極的に支援することで、多種多様な顧客からの一層高い支持が得られるよう、努めてまいります。また、自社の設計開発プロセスをA I駆動型に刷新するなど、A Iの徹底的な活用を通じて、自社の生産性の大幅な向上に取り組んでまいります。

加えて、グループとしての知的財産の有効活用や、M&Aも含めた機動的な戦略投資を行うことで、ビジネスモデルの進化を図り、次期以降の更なる成長へとつなげるとともに、継続的な人材採用、教育、研究開発への投資といった将来の成長に資する事業基盤の整備を進めてまいります。

人材採用については、2026 年度新卒採用で想定年収を引き上げることで採用競争力強化を行うとともに、2024 年より開始しているバリュー採用（新卒であっても高度ITスキル・ビジネス知識を持つ人材に対しては能力に応じた報酬を提供）の報酬体系も引き上げます。また、社会人ドクター支援制度「Future PhD Support Program」の導入により社員の博士号取得を支援し、A Iなどの先端領域で働きながら研究・修学できる環境を提供して先端技術人材育成を加速します。併せて、グループ内のコミュニケーション強化、品質管理精度の更なる向上等、グループガバナンスの強化を実施してまいります。

各セグメントの特記事項は次のとおりです。

(2) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、グループ各社との協業をより一層推進し、経営・ITコンサルティングを通じて顧客の経営課題に伴走して取組む体制を強化しました。これにより、経営改革を図る顧客からのグランドデザイン及びDXの推進を意識した、基幹システム刷新、データ基盤の構築等の新規案件を受注しました。グループ会社との協業を通じて、強固なITセキュリティの構築、顧客企業における高度IT人材の育成・内製化支援など幅広い領域で顧客及び業界の課題解決に取り組みます。中長期の成長戦略としては、「DX戦略パートナーシップの拡大」と、「知財展開モデルの確立」を実行してまいります。「DX戦略パートナーシップの拡大」により、お客様のDXパートナーとして、大規模システム開発に留まらず、DX戦略の策定・戦略の実行・お客様のIT組織及び人材強化を包括的に長期にわたり支援する協業基盤を構築いたします。「知財展開モデルの確立」においては、「次世代バンキングシステム」「FutureBANK」「GlyphFeeds」「FutureApparel」等、当社の既存知財を展開することでライセンスとコンサルティング及びカスタマイズ開発によるハイブリッドな収益モデルで安定的な収益基盤を築くとともに、新規知財の戦略的開発を進めてまいります。

更に、人材の獲得や教育への投資、品質管理、プロジェクトマネジメントの強化に取り組むことで、これからの時代をリードする体制作りを行ってまいります。

フューチャーインスペース株式会社は、積極的な人材投資により体制を強化しながら高品質かつ安定的な運用保守サービスを提供していくとともに、顧客基盤と信頼を生かし、高付加価値なシステム開発事業を拡大してまいります。

FutureOne株式会社は、引き続き、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の業界特化型の営業展開により受注を拡大するとともに、製品強化にも努め、製販一体でのトータルソリューションを顧客に提供することで収益の更なる拡大を目指します。

フューチャーアーティザン株式会社は、製造業向けDXコンサルティングと「Smart Factory」構築に加え、基幹システム刷新及び業務改革の支援サービスや製造業の根幹となる業務領域の企画から製造にわたる一連のサービスの提供によりビジネスの拡大を狙います。また、ESGマネジメントプラットフォーム「Kkuon（ケークオン）」を軸とした「ESG経営共創サービス」や製造業向け顧客接点DXソリューション「Fleacia（フリーシア）」の提供により収益の更なる拡大を目指してまいります。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、セキュリティ事故への対応も含めたトータルセキュリティ運用を強みに、企業が直面するセキュリティ課題の解決を包括的に支援する「SECURE WAVE Partner」サービスに注力することで、更なる収益拡大を目指してまいります。

株式会社リヴァンプは、経営マーケティング事業における既存案件の着実な遂行に加え、DX事業における既存顧客のグローバル展開支援を中心とした案件の拡大を目指すとともに、投資先や海外先進技術企業との協業により新規顧客を開拓していきます。また、引き続き、両事業においてフューチャーグループのリソースとノウハウを最大限に活用し、共同案件の創出、品質の向上など、シナジーの更なる拡大を図ります。

(3) ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、プライベートブランドの強化と定常的なコスト削減を引き続き推進し、収益改善及び業績回復に努めてまいります。

東京カレンダー株式会社は、各種媒体面やイベント、ネットサービスなどを通じ、ブランド力とユーザーエンゲージメントの更なる向上を継続してまいります。また、サービスの利便性や業務生産性の向上を目的に、A I 等のテクノロジー活用を全面的に推進し、各事業の更なる成長と収益拡大を目指してまいります。

ライブリッツ株式会社は、スポーツにおいて蓄積されたデータをもとにレポートを生成する「FastBall AI」や、集客及びマーケティング業務を支援する「FastBiz AI」を開発し、スポーツ界のDX及びA I 活用を促進するとともに、A I 技術を地域創生やエンターテインメント業界に広く展開することにより、更なる成長と収益拡大を進めてまいります。

株式会社キュリオシティは、プロジェクト規模の大きい高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインの事業に注力するほか、世界的なブランドのストアデザインを顧客の世界展開に合わせて継続的に受注してまいります。併せて、キュリオシティのデザイン哲学を理解・実践し、グローバルに対応できるデザイナーの採用・育成を進めてまいります。

3. 配当について

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として位置付け、持続的な成長を続けるための内部留保資金を確保しつつ、期間損益、キャッシュ・フローの状況、自己株式の買付状況等も総合的に勘案して配当を決定しております。

配当性向の目安に関しては、連結業績における配当性向を 35%以上とする方針としております。

上記の方針に基づき、当期末の剰余金の配当は、1 株当たり 23 円とすることを予定しており、既に実施済の中間配当を合わせた年間の配当金は 1 株当たり 46 円（連結配当性向 34.8%）となる予定です。

次期の剰余金の配当は、1 株当たり 48 円の普通配当（中間配当 24 円、期末配当 24 円。連結配当性向 36.1%）を予定しております。

以上

●本件に関する問い合わせ先：

フューチャー株式会社 ファイナンシャル&アカウンティンググループ 松下恭和
IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp